

猛暑が続いています。ほ場の土壌水分を十分確保し 初期登熟を促進させましょう！

J A たきかわ 営 農 部
空知農業改良普及センター-中空知支所滝川分室

猛暑が続き、水稻の生育もかなり挽回しているところです。
現在、登熟初期を迎えており、的確な水管理とカメムシ（カメムシは暑いほど元
気になる）の適期防除が重要です。

■ 高温と土壌水分不足による腹白・乳白粒の発生

水稻が登熟初中期の頃に、高温条件と土壌水分不足が重なると、籾へのデンプンの転流が不十分となり、腹白、乳白粒の発生が増加します。



■ 暑い夏の登熟初中期の水管理！

- ①土壌水分を多めに管理、ひたひた水にする。
乾いている水田は、直ちに水を入れる。
- ②日中29℃以上、夜温23℃以上が5日以上続きそうな時は、夜間にかけ流しを行い、水田地温や稲周辺の気温を下げるのが有効。 → 現在がこの様な高温状況で、続く見込み。

- 防除後5日目にカメムシの発生予察を行い、
20回振り当たり きらら397：2頭以上
ほしのゆめ：1頭以上の場合は、
直ちに防除を行いましょう。

- カメムシの予察結果は平年並ですが気温が30℃以上では、カメムシの吸汁活動が活性化し、斑点米を多くします。
防除間隔は（7～8日間）が基本です。
→ 出穂期30日後まで注意しましよう。

